

# AQL 埼玉リーグ新人戦企画書

## 1R 202×クイズ 【{(ALL/8→4)×4}×2】

参加者全員を事前抽選によって8組に分け、それらを第7・9会議室に4組ずつ振り分けて試合を行う。

2問正解で勝ち抜け、2問誤答で失格となる。限定問題数は各組20問。

限定問題数終了後、○の数→×の数→1○1×サドンデスで残りの勝ち抜け者を決定する。

各組勝ち抜け上位者から順にA~Dへのコース選択を行ってもらう。組内で一回選択されたコースは、以降選択することはできない。つまり第4勝ち抜け者は強制的に余ったコースに進出となる。各コースは以下の通りである。

コース A	ダンブルドア 1組目	コース B	ダンブルドア 2組目
コース C	2着付き 10NY 1組目	コース D	2着付き 10NY 2組目

なお、コースA~Dは第9会議室で行い、敗者用企画(後述)は第5・7会議室で行う。

## 2R コース別クイズ 【(8→2)×4】

### αコース ダンブルドアクイズ

開始前に1~8までの数字が書かれたトランプを一枚ずつ引いてもらい、引いた数字に対応する席に座ってもらう。

問題読み上げ中にボタンが押されると、まずボタンを押した人の隣の人に解答権が与えられる。解答権を持つ人が正解できなかった場合、またその人の隣の人に解答権が移り、正解者が出るか一周するまでこれを繰り返す。

ボタンを押した人と正解者が違う人である場合、両者に解答権が回った人数÷2のポイントが入る。但し小数点以下は切り上げて計算する。

ボタンを押した人と正解者が同じ人である(解答権が一周して正答した)場合、解答権が回った人数分のポイントがそのままボタンを押した人に入る。

ボタンを押した人以外の方が誤答した場合はノーペナルティだが、解答権が一周してボタンを押した人が誤答もしくは無回答の場合は、1回目で解答権が回った人数分のポイントがそのままボタンを押した人から減点され、2回目で失格となる。

25pt獲得で勝ち抜け。限定問題数は各組20問。

限定問題数終了後、ポイント数→1○1×サドンデスで残りの勝ち抜け者を決定する。

## $\beta$ コース 2着判定付き 10NY

通常は最初にボタンを点けた(1着)プレイヤーのみが解答権を得られるが、このルールでは1着プレイヤーが誤答した場合、2番目にボタンを点けた(2着)プレイヤーも解答できる。

1着プレイヤーは正解で+2pt、誤答で-2ptされる。

2着プレイヤーは正解で+1pt、誤答で±0ptされる。

10ptに到達すると勝ち抜け。計3回誤答で失格。限定問題数は各組25問。

限定問題終了後、ポイント数→正答数→1着正答数→1着誤答数→1〇1×サドンデスで残りの勝ち抜け者を決定する。

## F 3連答勝ち抜け式クイズ 【8→1】

3問連続で正答した時点で即勝ち抜け、AQL 埼玉リーグ新人戦の優勝者となる。

誤答した場合、それまでの誤答数と同じ問題数の間休みとなる。

また、ここでいう「3問連続で正答」とは、「自分の誤答または他人の正答を挟まずに3問正答する」ことである。

限定問題数は公表しない。限定問題数終了時に勝ち抜け者が出ていない場合、

2連答の回数→〇数→×数→1〇1×サドンデスで優勝者を決定する。

## 敗者用企画

第5・7会議室で行う。本戦用の問題で2〇2×を繰り返し行い、6人勝ち抜けたらリセットして再び全員で2〇2×を行う。

## 全体を通しての諸注意

- ・シンキングタイムはボタンが押されてから5秒。問題が読み切られてからの待ち時間は3秒。
- ・ブザーと同時にボタンが押されてもスルー扱いとし、ブザーと同時の解答は誤答。
- ・ボタンがついていないにも関わらず答えてしまった場合は大きな独り言として扱う。
- ・解答が聞こえなかった場合「聞こえませんでした」と再解答を促す。この時、一度言った答えをそのまま言わねばならない。
- ・正解に非常に近い回答が言われた場合などは「もう一度」と言って再解答を促す。
- ・日本人や韓国人などの東洋人名はフルネームで解答すること。ただし固有名詞化した通称や四股名などはこの限りではない。
- ・上記以外の人名はファミリーネームでの解答も可とするが、明らかにフルネームを要求する問題は例外とする。
- ・「 $A=B$ 」という複合性の場合、「 $A=B$ 」の解答のみ正解とする。
- ・イスラム圏の人名については一般的な通称で可とする。
- ・日本プロスポーツ連盟に加盟しているスポーツチームにおいてはフルネームでの回答を要求する。
- ・広域と狭域を両方答えた場合（都道府県と市町村・国と州など）は、狭域を答えたものとみなす。
- ・複数のものから一つを答える場合、順序が合っている場合のみ可とする。複数のものをすべて解答する場合は順不同でもよい。
- ・問題に対する抗議は、次の問題に移るまでの間とする。それ以降の抗議は原則認めない。
- ・問読みが「問題」といった後にボタンが押された場合、正誤判定が認めない限り、解答を要求する。

## その他

- ・問題に答えられるのは(2Rβコースを除いて)1問につき1人のみです。誰かが誤答した後にボタンを押して解答する(いわゆる「セカンドチャンス」)事はできません。
- ・早押し機及びボタンは借り物かつ精密機械のため丁寧に扱ってください。ボタンの強打、連打はやめましょう。
- ・回答は、大きめの声ではっきり行ってください。